環境活動レポート

（改訂 4）

「職場から地域へ　個人から家族へ」

～2016 年度 Eco 活動の取り組み～

対象期間：2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

MHPSエンジニアリング株式会社

横浜事業部及び総務部

発行日 2018 年 02 月 20 日

≪　目　次　≫

1. 事業部長メッセージ 1
2. 環境方針 2
3. EA21 活動 3
3.1 環境活動の経緯 3
3.2 環境活動推進体制 4
3.3 EA21 活動の紹介 5
4. 会社概要 8
4.1 組織体制 8
4.2 事業概要 9
5. 環境活動の取組 10
5.1 環境活動の目標及び実績・評価 10
5.2 生物多様性に関する取組 23
5.3 昨年度評価及び次年度以降の取組 24
6. 環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無 25
7. 代表者による全体評価と見直し結果 26

1. 事業部長メッセージ

～多彩な技術で持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて～

当社は、三菱重工業(MHI)及び三菱日立パワーシステムズ（MHPS)グループのエンジニアリング会社で、その源流は1961年10月に遡り、50年を超える歴史のなかで多数のエンジニアを輩出し、日本国内に限らず全世界にMHI/MHPS製品を送り出し、社会に貢献してまいりました。
当社が関わる製品は、火力・原子力発電プラント、化学プラント、鉄構製品、環境装置、交通システム、航空・宇宙関連機器、ITシステムに至るまで多岐にわたっており、得意とする設計ファンクションは、土木・建築、機器・機械、計装・電気、配置・配管、制御装置、コンピュータ解析など多種あり、将に「総合エンジニアリング会社」と自負しております。

環境活動としては、当社横浜事業部でも、地球温暖化対策のために豊かな低炭素社会づくりに向けた知識や技術をみんなで楽しく共有し配信する気候変動キャンペーン［Fun to Share］に賛同し「地球温暖化防止への貢献」、「地球環境保全への貢献」を軸に積極的に取り組んでおります。
その一環として当社では「社内エコポイント制度」を2010年6月にスタートさせ、本年で８年目を迎えました。社員の環境活動への意識向上を牽引するツールとして活用しております。
環境活動をより楽しく、より長く継続していくかを重要と考え「社内エコポイント制度」を通じて社員の自発的な環境意識向上を図り、環境活動の発展に寄与していく所存です。
また、本業である環境配慮型設計を重点に置き、更に環境教育に力を注ぎ取り組んで行きたいと考えております。エネルギー使用のあり方について全員で見直すとともに、省エネルギー活動を効果的に実践し、エネルギー使用量の削減を図っていきます。
エネルギー・環境・インフラ等の多彩な技術でお客さまの様々なニーズにお応えすると共に、世界中の人々が願う地域社会と地球環境づくりに、技術者としての倫理を旨として貢献してまいります。

MHPSエンジニアリング株式会社
取締役常務執行役員
横浜事業部長　西村　重雄

2. 環境方針

【基本方針】

横浜事業部及び経営統括部総務部は、企業が社会の一員であることを自覚し、環境負荷の低減ならびに、製品事業を通して環境を保全する技術・製品の提供に努め、持続的発展が可能な循環型社会の構築に貢献する。

【行動指針】

1　環境保全への取組をＣＳＲ経営の最重要課題の一つと位置付ける。
2　企業活動に係わる全ての環境関連法規、その他社会的要求事項を順守する。
3　常に環境負荷低減の観点に立ち、省資源・省エネルギー・リサイクルを考慮した技術・製品の開発・設計・調達・建設・サービスを行う。
4　企業活動における廃棄物の削減・分別・省エネルギーに努める。
5　環境保全に関する社会貢献として、社外教育活動に取り組む。
6　環境教育を通じて全社員に本理念・指針を周知徹底し、継続・自発的な環境意識の向上を図る。

この方針は内外に公表する。

2016年7月1日
ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社
取締役常務執行役員
横浜事業部長　西村　重雄

■エコアクション21　認証・登録

認証登録事業所	横浜事業部及び総務部 本牧地区、みなとみらい地区
認証・登録の 対象活動範囲	各種製品（原動機、鉄構、環境装置、システム、その他） の設計・調達及び据付建設工事
認証登録番号	0000516
認証登録日	2005 年 10 月 31 日
更新登録予定日	2017 年 10 月 31 日

3.EA21 活動

3.1 環境活動の経緯

1961 年 10 月　菱日重エンジニアリング㈱を設立
1972 年 10 月　菱日エンジニアリング㈱に社名改称
2004 年 11 月　エコアクション 21 社内事務局を設置
2005 年 10 月　エコアクション 21 認証登録（認証・登録番号　0000516）
2009 年 03 月　環境省・環境コミュニケーション大賞　環境レポート部門　優秀賞を受賞
2009 年 04 月　横浜型地域貢献企業認定で最上位認定取得
2009 年 04 月　横浜市 150 万本植樹行動市長表彰　受賞
2010 年 06 月　社内エコポイント活動開始
2010 年 07 月　「チャレンジ 25」に登録
2010 年 10 月　環境活動促進システム「ＥｃｏＰＳ」運用開始
　　環境活動促進システム「ＥｃｏＰＳ」特許出願　（特許第５３３１０６３号）
2011 年 06 月　環境省「マイボトル・マイカップキャンペーン」に登録
2011 年 07 月　横浜マリンタワーエコキャップ活動展示に協賛
2012 年 03 月　平成 23 年度かながわ地球環境賞受賞
2012 年 04 月　ＭＨＩプラントエンジニアリング㈱に社名変更
2014 年 02 月　三菱日立パワーシステムズエンジニアリング㈱に社名変更
2014 年　８月　環境省「Fun to Share」に登録
2015 年 10 月　MHPS エンジニアリング㈱に社名変更
　　エコアクション 21 10 周年記念式典に出席
2016 年　3 月　WWFJapan 法人会員登録
2016 年 12 月　低炭素杯 2017　優良賞受賞

社内報に掲載された時の事務局集合写真

低炭素杯 2017
優良賞

MHPSエンジニアリング株式会社 殿

取組名 環境活動促進システム(EcoPS)
の開発及び社内実践運用

貴団体の活動は全国各地で地球温暖化対策に取り組む精鋭の中から低炭素杯2017優良賞に選ばれましたのでここに称え表彰いたします

平成28年12月9日

低炭素杯実行委員会委員長
小宮山 宏

低炭素杯　優良賞

3.2 環境活動推進体制

2017/4/1

環境活動体制表（横浜事業部）

代表者
EA21環境最高責任者
西村　横浜事業部長

（代表者の役割）
1. 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知
2. 環境レポートの承認
3. 代表者による全体の評価と見直しを実施
4. 環境管理責任者を任命

EA21事務局

環境管理責任者
鈴木部長
（環プ部）
（YBA）

（環境管理責任者の役割）
1. EA21 事務局長を任命
2. 環境活動の取り組み結果を代表者へ報告

EA21事務局長
田籠グループ長
（プ計部）
（MM）

推進委員
杉林主席技師
（シス部）
（本牧）

推進委員
山口社員
（シス部）
（本牧）

推進委員
石橋社員
（横プ設部）
（本牧）

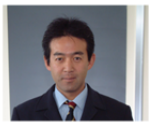
推進委員
藤井社員
（環プ部）
（YBA）

（EA21事務局の役割）
1. 横浜事業部関係部門（総務部含む）の環境活動企画及び取りまとめ
2. 環境目標・環境活動計画書作成及び各部門の推進担当への周知
3. 環境関連法規等の取り纏め
4. 環境活動の実績集計
5. 環境活動レポートの作成及び公開
6. 外部審査及び内部審査対応
7. EA21推進担当者に対する教育訓練の実施

部門責任者：各部長

（部門責任者の役割）
自部門のEA21推進担当者を選任

各部門のEA21推進担当者

経営統括部 総務部 横溝主席部員	シス部 蒲谷主席技師	鉄設部 浅田主席技師 (副)土佐林主席技師	環プ部 菅原主席技師	原設部 鈴木（稔）主席T統括	プ計部 原主席T統括	横プ設部/横空設部/横計電部 鈴木（克）主席技師
						

（EA21推進担当者の役割）　自部門における
1. 環境方針の周知
2. 環境活動計画書作成と周知
3. 環境活動の推進
4. 従業員に対する教育訓練の実施
5. 環境活動実績集計及びEA21事務局への報告
6. 外部審査及び内部審査の自部門の対応

3.3 EA21 活動の紹介

3.3.1 事務局会議の様子

年間を通して毎月定期的に開催しています。

＜主な会議内容＞

・環境活動の企画・部門周知

・活動計画表の策定

・審査対応

環境活動についての活発な意見交換

3.3.2 外部審査の様子

＜審査人の評価コメント＞

・主要な活動項目は全て環境目標を達成している

・環境配慮型設計の活動項目もごく一部を除き目標達成している

・エコポイントシステムの制度が更に改善されている

・従業員環境教育の一環としてエコ検定試験に取り組まれている

各部門においてサンプリング（職場のサンプリング風景）

3.3.3 内部監査のヒアリング

＜活動内容＞

・各部門の活動の進捗フォロー

・推進担当者への教育など

部門責任者と事務局担当者へ（審査内容説明ほか）

3.3.4 環境教育

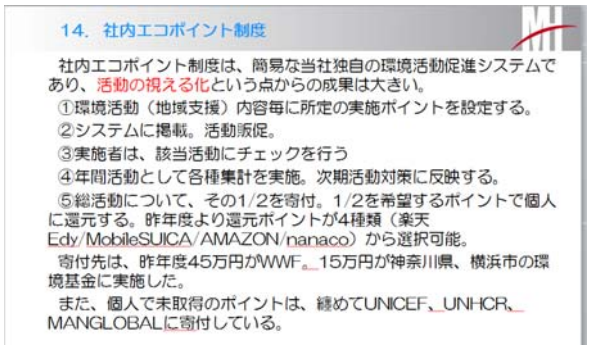
①部門推進担当者向け教育

2016 年 6 月 14 日に部門推進担当者向け教育を行いました。

（部門推進担当者向け教育の風景）

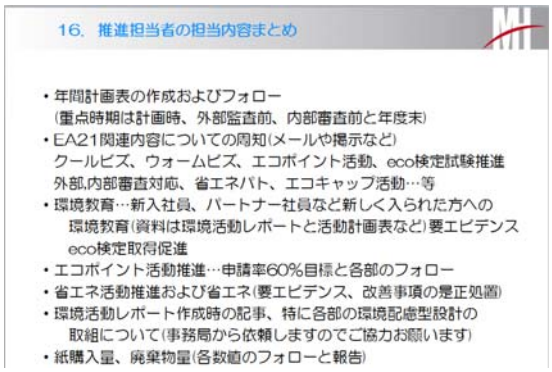
勉強会当日の資料は、EA21 事務局メンバーで準備し、「EA21 とは」という説明から社内の環境活動の経緯、部門推進担当者のやるべきことなどを説明しました。また、COP21 パリ協定や低炭素化に向けた世界情勢についても紹介し、環境活動への関心を持ってもらうように教育しました。

（部門推進担当者向け資料例）



14. 社内エコポイント制度

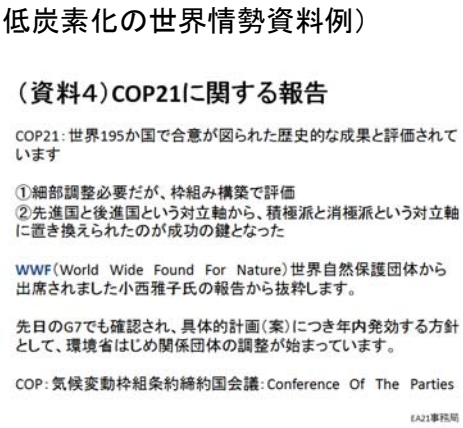
社内エコポイント制度は、簡易な当社独自の環境活動促進システムであり、活動の視える化という点からの成果は大きい。
①環境活動（地域支援）内容毎に所定の実施ポイントを設定する。
②システムに掲載。活動喚促。
③実施者は、該当活動にチェックを行う
④年間活動として各種集計を実施。次期活動対策に反映する。
⑤総活動について、その1/2を寄付。1/2を希望するポイントで個人に還元する。昨年度より還元ポイントが4種類（楽天Edy/MobileSUICA/AMAZON/nanaco）から選択可能。
寄付先は、昨年度45万円がWWF。15万円が神奈川県、横浜市の環境基金に実施した。
また、個人で未取得のポイントは、縁めてUNICEF、UNHCR、MANGLOBALに寄付している。



16. 推進担当者の担当内容まとめ

- 年間計画表の作成およびフォロー
（重点時期は計画時、外部監査前、内部審査前と年度末）
- EA21関連内容についての周知(メールや掲示など)
クールビズ、ウォームビズ、エコポイント活動、eco検定試験推進
外部,内部審査対応、省エネパト、エコキャップ活動…等
- 環境教育…新入社員、パートナー社員など新しく入られた方への
環境教育(資料は環境活動レポートと活動計画表など)要エビデンス
eco検定取得促進
- エコポイント活動推進…申請率60%目標と各部のフォロー
- 省エネ活動推進および省エネ(要エビデンス、改善事項の是正処置)
- 環境活動レポート作成時の記事、特に各部の環境配慮型設計の
取組について(事務局から依頼しますのでご協力お願います)
- 紙購入量、廃棄物量(各数値のフォローと報告)

（低炭素化の世界情勢資料例）



（資料4）COP21に関する報告

COP21：世界195か国で合意が図られた歴史的な成果と評価されています

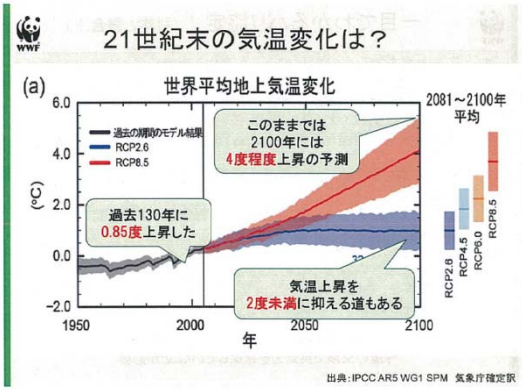
①細部調整必要だが、枠組み構築で評価
②先進国と後進国という対立軸から、積極派と消極派という対立軸に置き換えられたのが成功の鍵となった

WWF(World Wide Found For Nature)世界自然保護団体から出席されました小西雅子氏の報告から抜粋します。

先日のG7でも確認され、具体的計画(案)につき年内発効する方針として、環境省はじめ関係団体の調整が始まっています。

COP：気候変動枠組条約締約国会議：Conference Of The Parties

EA21事務局



②社内ホームページにおける環境活動報告

社内では「すぴいど」という社内向けのホームページがあり、社内行事や予定、各部門の状況などを紹介しています。その中の１つに環境活動を紹介するページがあり、環境活動のイベント連絡や実施報告などを掲載しています。

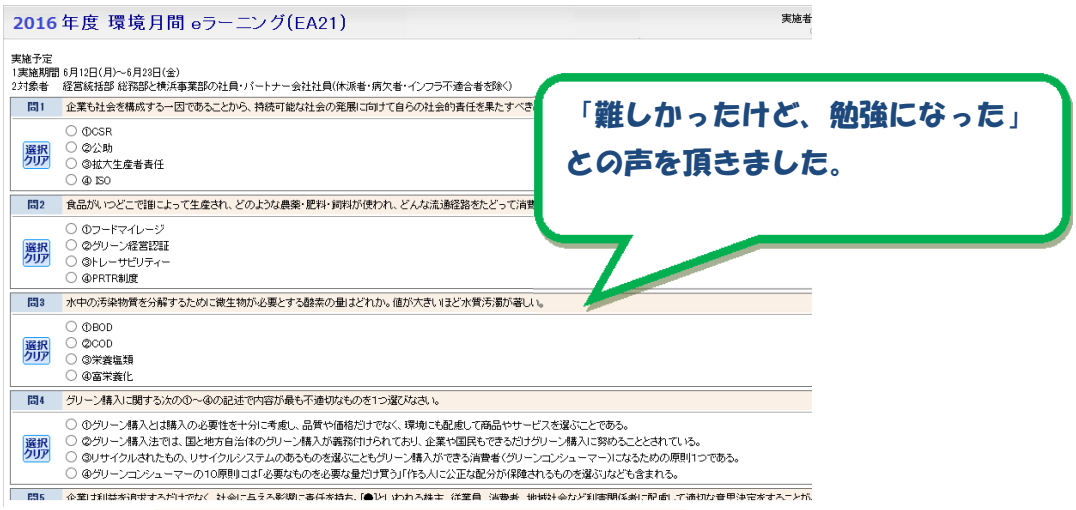
（環境活動紹介画面のイメージ）

③ｅラーニング教育実施

「ｅラーニング」とは、インターネットを利用した学習形態のことであり、社内では、安全教育、情報セキュリティ教育などで利用しています。

今回、環境月間である６月にｅラーニングを利用した環境教育を初めて導入し、エコ検定やEA21についての問題を作成し、テストを実施してもらいました。

実施率は、99%でほぼ全員が実施した結果となりました。



（ｅラーニング画面のイメージ）

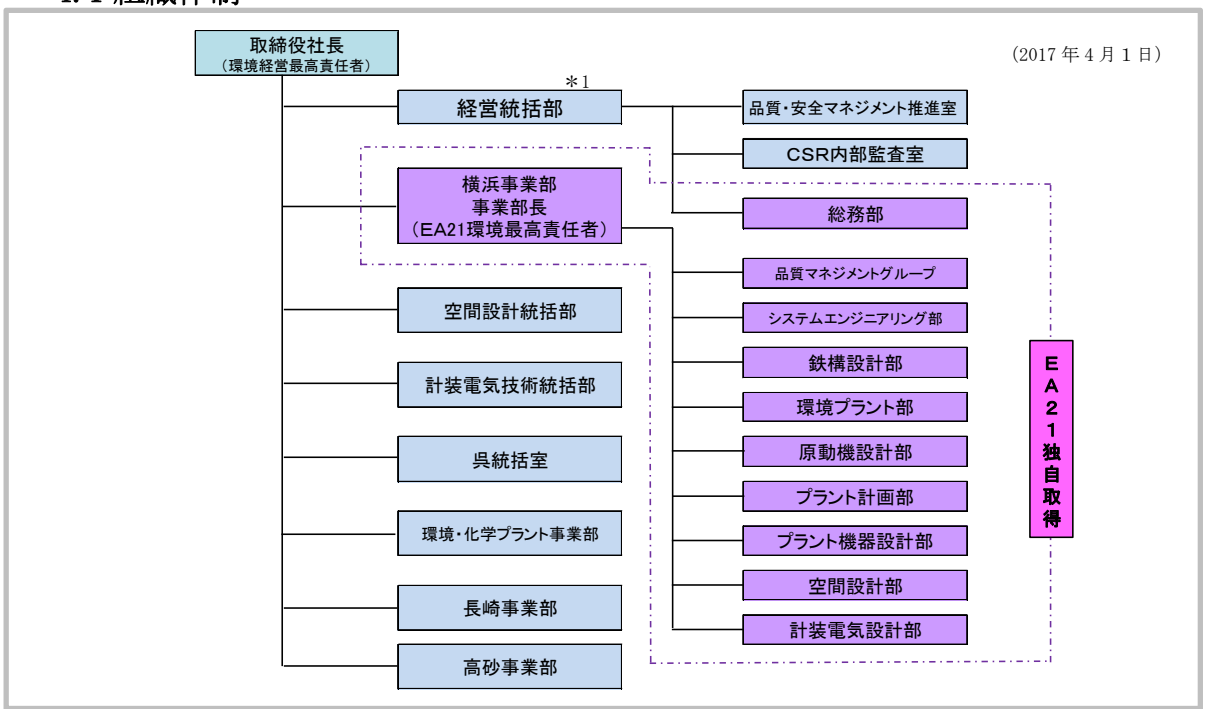
4. 会社概要

ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社は、『優れた技術・製品によって社会に貢献する』という三菱日立パワーシステムズグループの企業理念のもと、原動機・発電プラント、環境装置、化学プラント、原子力、機械・鉄構、船舶・海洋、航空・宇宙機器、新エネルギー、システム開発といった各製品の設計・エンジニアリング・現地工事・アフターサービスを提供する総合エンジニアリング会社です。

（2017 年 4 月 1 日）

事業名称	ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社 横浜事業部及び総務部	
代表者 （環境最高責任者）	横浜事業部長　西村重雄	
環境管理責任者	環境管理責任者　鈴木慎悟	
住　所	【本牧地区】	神奈川県横浜市中区錦町 12 番地
	【みなとみらい地区】	神奈川県横浜市西区みなとみらい 3 丁目 3 番 1 号
		神奈川県横浜市西区みなとみらい 4 丁目 4 番 2 号
		神奈川県横浜市中区桜木町 1 丁目 1 番 8 号
社員数	1,450 名　（横浜事業部及び総務部：　350 名）	
売上高	約 240 億円　（横浜事業部：　約 53.6 億円）	
工事件数	（横浜事業部：　25 件）【建業法対象工事】	
延べ床面積	（横浜事業部及び総務部：3,578 ㎡）	
仕事の内容	原動機、環境装置、鉄構製品などの総合エンジニアリング	

4.1 組織体制



注：EA21 認証範囲として本牧地区、みなとみらい地区で活動を展開してきたが、職制改正が続いた影響で本牧地区の一部の組織(*1)が認証範囲に含まれなくなったため、2018 年度は拠点別に全組織が活動できるよう認証範囲を明確にし活動を展開します(認証範囲拡大推進)。

*1：本牧地区、経営統括部を拡大予定

4.2 事業概要

【プラント製品】
広大な敷地にある発電プラントの機器やプラントに至るまで当社の技術が活かされています。
・ボイラ
ボイラ及び付帯設備の基本計画･見積から設計・アフターサービスまでを行っております。
・蒸気タービン
蒸気タービン本体の開発･生産設計や制御・潤滑油装置､付帯配管などタービン廻りの制御・艤装関係の生産設計を行っております。

HRSGボイラ

大型石炭火力用蒸気タービン

【環境プラント】
都市ごみ焼却施設、産廃廃棄物処理施設、汚泥焼却施設及びし尿処理施設の新設工事・アフターサービス・延命化工事の計画・引合・取り纏め・主機詳細設計まで多岐に亘って対応しております。

都市ごみ焼却施設

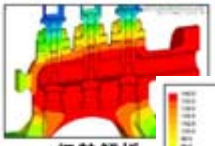
産廃廃棄物処理施設

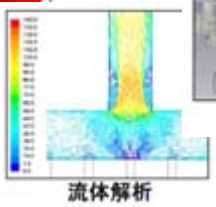
【鉄構製品】
冷却塔は、熱交換器や回転機本体及び潤滑油の冷却に使用されており、プラントの熱効率に影響する重要な機器の設計に関わっております。

冷却塔

橋梁

【システム・解析計測】
CAE など最新の技術を用いた各種製品の開発を行っております。ICT 技術で設計、保守の効率化を図ります。


伝熱解析


流体解析

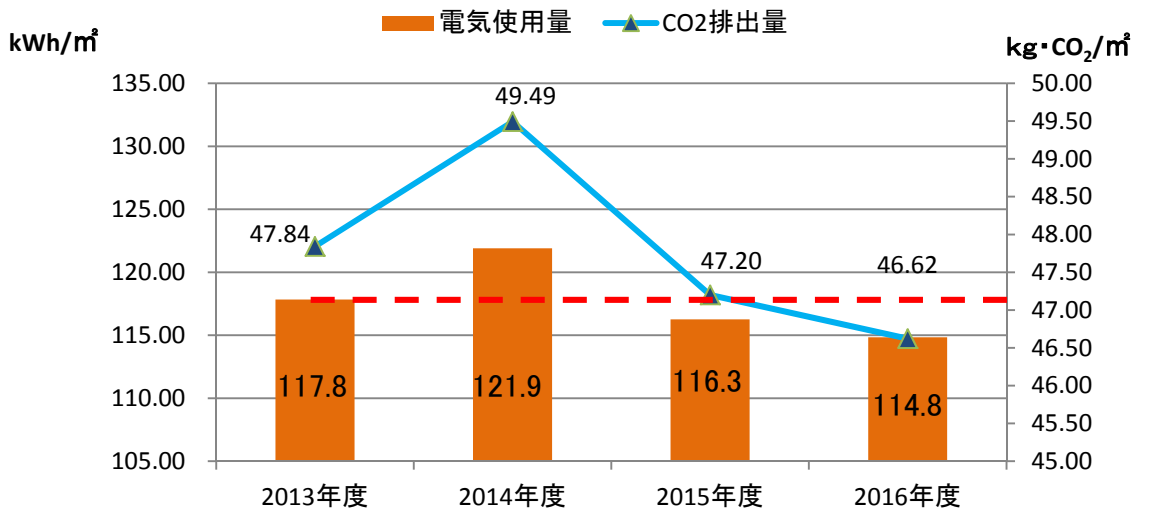
点群計測

5. 環境活動の取組

5.1 環境活動の目標及び実績・評価

5.1.1 炭酸ガスの排出状況

目　標	結　果
床面積当たりの炭酸ガス排出量は、2013 年度実績値以下とする。中期目標は 2016 年度までの維持活動です。 **電気使用量**　117.8　[kWh/㎡・年以下] **参考値**　194,068【kg- CO_2】 47.84　[kg・CO_2/㎡]	**電気使用量**　114.8　[kWh/㎡・年以下] **参考値**　166,825　【kg- CO_2】 46.6　[kg・CO_2/㎡] **目標達成**



CO2 排出量は算出用係数 0.406(kg-CO_2)で算出。

＜主な活動・取組内容＞

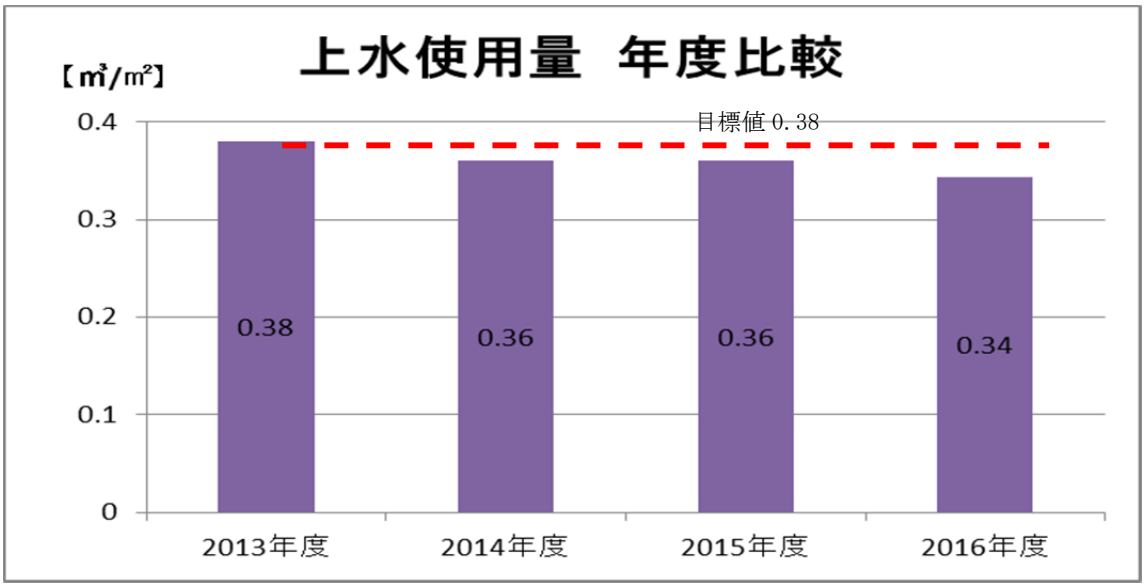
・電気をこまめに消す、電灯の間引き
・離席時及びタイマー設定で PC モニター電源 OFF
・昼休みの消灯徹底、定時後の一斉消灯
・夏季・冬季の省エネパトロール実施・フォロー

＜評価＞

年々排出量が減っていることが評価出来る。推進担当者への教育実施により推進担当者から部内社員へ拡がり、活動が活発になったのではと思われる。また省エネパトロールでの巡回・フォローも効いていると考える。
今後も推進担当者教育及び省エネパトロールを実施し、すぴいど(社内システム)や内部監査を利用して啓発を行っていきたい。

5.1.2 上水使用量

目　標	結　果
床面積当たりの水使用量を 2013 年度実績値以下とする。中期目標は 2016 年度までの維持活動です。 **0.38[㎥/㎡]以下**	**上水使用量結果**　**0.34[㎥/㎡]**



＜主な活動・取組内容＞

・日頃の節水意識、「節水」の表示をする

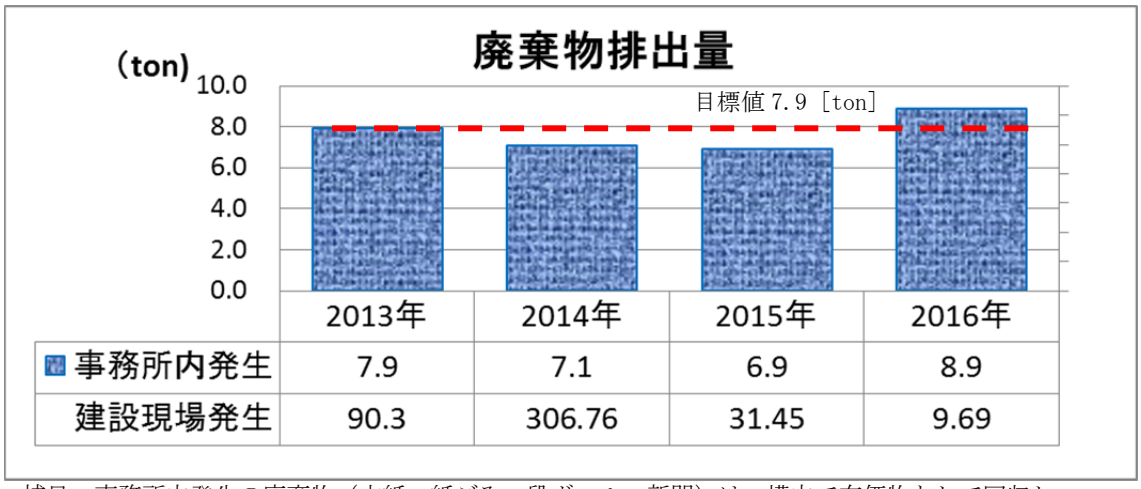
・マイボトルの推進

＜評価＞

社内の節水活動は定着している。社内だけでなく、家庭でも「節水」≒「節約」もあるので節水意識がより高くなるが、社内でも節水意識向上が望まれる。今後も節水の意識を高める為「節水」表示を増やしたり、すぴいど(社内システム)で節水を呼び掛けたい。

5.1.3 廃棄物排出量

目　標	結　果
廃棄物排出量は、2013 年度の実績値以下とする。中期目標は 2016 年度までの維持活動です。 **7.9[ton]以下**	**廃棄物結果**　8.9[ton] **目標未達成！**



補足：事務所内発生の廃棄物（古紙・紙ごみ・段ボール・新聞）は、構内で有価物として回収し、リサイクルされています。２０１６年度は、事務所の一部移転もあり、廃棄物排出量が増加し年度の目標は未達成となった。建設現場発生分については,冷却塔の現地工事により発生した排出量を示す。（マニュフェストで確認済み）

＜主な活動・取組内容＞

・両面印刷または２アップ印刷使用
・裏紙活用
・プロジェクター、会議モニター利用による会議資料の削減
・印刷前確認で間違い印刷防止

＜評価＞

プロジェクターを使用したり会議用モニターを運用するなど各部で廃棄物削減の動きがある為、排出量が削減した。
2 アップ印刷は物により文字が小さく見づらい、裏紙の利用は、印刷物によっては出来ず切り替えが面倒くさいなどとの声もあるので、そこは奨励・フォローしていきたい。
また、紙以外の廃棄物もマイカップ、マイボトル、マイ箸活動を拡大させ排出量削減に貢献していきたい。

5.1.4 グリーン調達

目　標	結　果
グリーン調達率の向上を目指して再生紙利用率を　１００％　としました。	**再生紙利用率　100%** **目標達成！**

【主な活動】

① 所内のグリーン調達する為のシステム（J-POINT）を使用
環境にやさしいものを選び購入しています。

② 3R の取組み
3R(Reduce、Reuse、Recycle)に基づき、社内で活動しています。

紙の購入量を減らす為、資料の電子化(PDF 等)をしたり、裏紙の利用を行っています。文房具は再使用をすることで Reduce に繋げています。

Reduce
ゴミを減らす

・不要になったファイルやクリップなどを収集し再使用利用しています！

3R

作業着もリサイクルされています。

Recycle
再生利用

Reuse
再使用

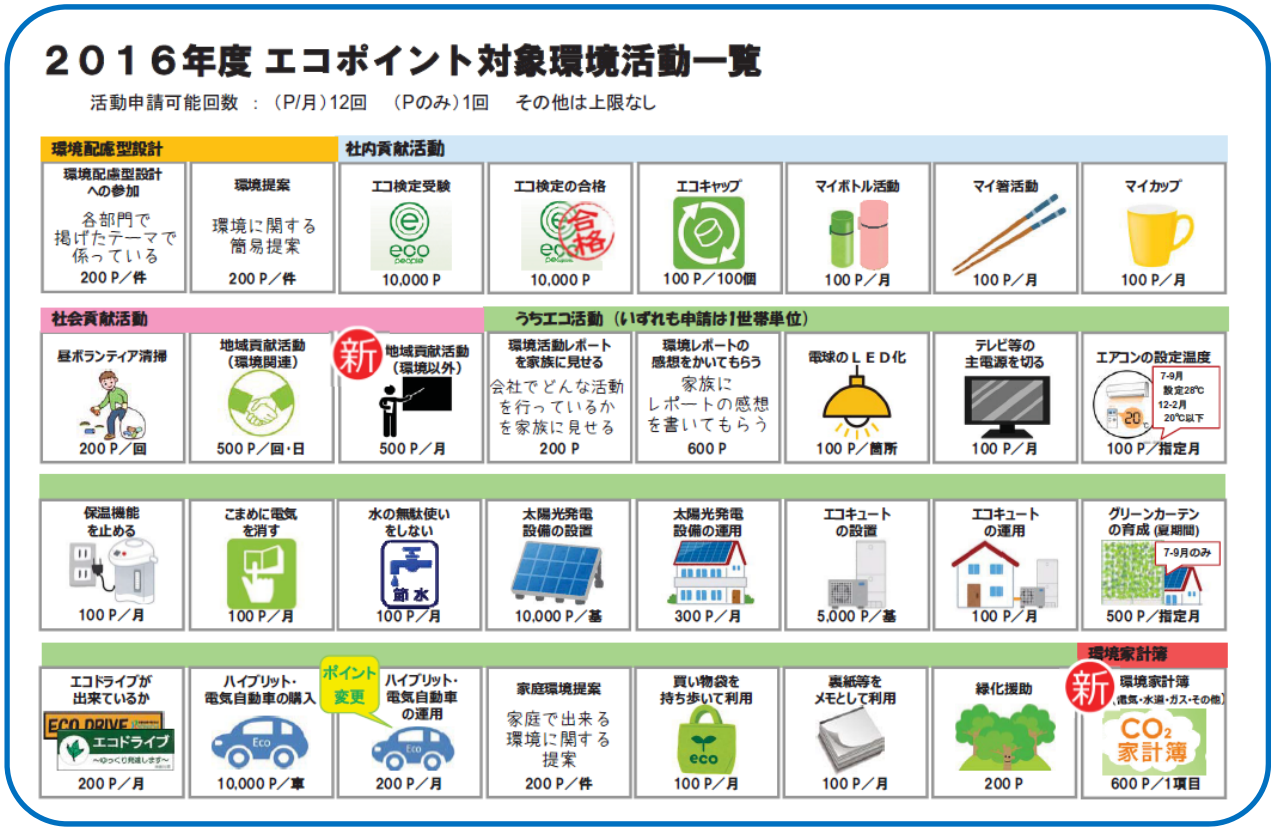
5.1.5 環境活動（エコポイント活動）

＜社内エコポイント制度について＞

当社横浜事業部及び総務部では、環境省の EA21 を取得して規準に沿って活動を行っています。その中で環境活動のマンネリ化、評価の曖昧さを鑑み、2010 年 6 月より活動の「視える化」を目的に「社内エコポイント制度」を発足させました。

毎年度、環境・地域貢献に関する活動を事務局でポイント化して公示し、社員は自己申告により該当活動を申告、１年間このポイントを積算し、この１／２を寄付に、１／２を個人に還元(電子マネー)して次年度の活動に役立てております。

また、社内エコポイント制度をより広める為、2010 年 10 月より「環境活動促進システム（Eco Promotion System）」を導入し、社員の環境活動の促進を図っております。



＜エコポイント制度における４つの柱＞

環境活動の取組として、次の４つの活動を推進しております。

① 環境配慮型設計・・・業務の中での環境配慮型設計取組

② 社会貢献活動・・・・地域貢献活動を重視した社会貢献活動

③ 社内環境活動・・・・会社内での環境活動

④ うちエコ活動・・・・各家庭におけるエコ活動

＜2016 年度の取組について＞

2016 年度では、社員だけではなく家族も気軽に環境活動に参加してもらえるようにスマートフォンからエコポイントの申請ができるように「EcoPS スマホ版」を導入しました。

また、2015 年度までは、申請受付期間を年末に設け、その期間に 1 年分の申請を受け付けていましたが、2016 年度より申請受付期間を延ばし、環境活動をする度に都度申請できるようにしました。

「環境活動促進システム（Eco Promotion System）」パソコン版とスマホ版

＜パソコン版＞イメージ

＜スマホ版＞イメージ

① 環境配慮型設計（製品ごとの取組事例紹介）

発電プラント製品

1. 概　要

発電プラント製品においては、三菱日立パワーシステムズ株式会社のエンジニアリング部門として、ばい煙発生量の少ない天然ガスを主燃料としたボイラプラントの設計、及び既存設備の有効活用を図るメンテナンス部品の供給や省エネルギー化等に係わる設計を行い、環境負荷低減に取組んでいます。

2. 目標と結果、評価

2016 年度は、前年度に引き続き、ボイラ本体更新に合わせ、プラントの主燃料を灯油から天然ガスへ変更することによるボイラ排ガス中の窒素酸化物濃度、ならびに二酸化炭素排出量の低減を目的とした設計を行いました。

活動項目	目　標	結　果	判　定
プラントの主燃料変更によるボイラ排ガス中の窒素酸化物濃度、ならびに二酸化炭素排出量の低減を図る設計の実施	窒素酸化物濃度 ：130ppm-最大 （O_2 = 5%） 二酸化炭素排出量 ：25%削減	窒素酸化物濃度 ：101ppm-最大 （O_2 = 5%） 二酸化炭素排出量 ：25%削減	○

3. 提案内容一例の紹介

・排熱回収設備の追設によるボイラ効率化
・給水加熱器の追設によるタービン発電量の増加
・通風機の回転数制御化による省エネルギー化

鉄構製品

1. 概　要

鉄構製品の環境配慮型設計は、橋梁によるインフラ長寿命化の取組による資源の有効活用、ガスホルダではシール材の部材変更による更新サイクルの長期化による廃棄物の低減と、機械式駐車場では高効率モータ等の採用による省電力設計と長寿命化による資源の有効活用で省資源･省エネルギーに向けた取組を行っています。

2. 目標と結果、評価

2016 年度は、以下の活動項目を掲げて活動し、2 項目は達成、未実施の 1 項目(高効率、省エネ製品の採用に取組)については、残り 1 件足りませんでした。

来年度は 3 項目とも達成出来る様、そして今後も省エネルギーの活動促進に貢献したいと思います。

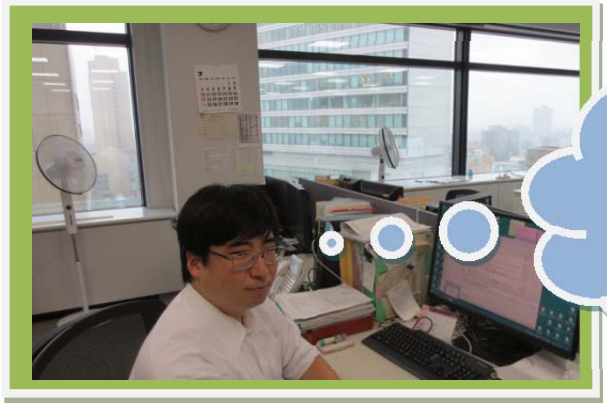
活動項目	目　標	結　果	判　定
・既設構造物の再利用工事に取組資源と廃棄物の削減に繋げる	1 件以上	1 件	○
・ガスフォルダーの使用部材を変更し資源と廃棄の削減に繋げる	1 件以上	1 件	○
・既納入物件の高効率、省エネ製品の採用に取組み CO_2 の削減に繋げる	8 件以上	7 件	×

3. 提案内容一例の紹介

・シールゴムの使用部品を変更し、更新工事のサイクル期間の延長に貢献

・リニューアル工事案件の高効率モータ、LED 照明、インバータ、回生コンバータの採用で省電力化設計への取組

・事務所内では扇風機＆サキュレータの活用で省エネに貢献



利用者にも環境にも優しい
設計を提案していきます！

環境装置

1. 概　要

環境装置製品の環境配慮型設計は、ごみ焼却施設の長寿命化工事の基本設計段階で、資源の有効利用かつ CO_2 削減の検討を行い、お客様のニーズに応える CO_2 削減メニューを提案する取組を行っています。

2. 目標と結果、評価

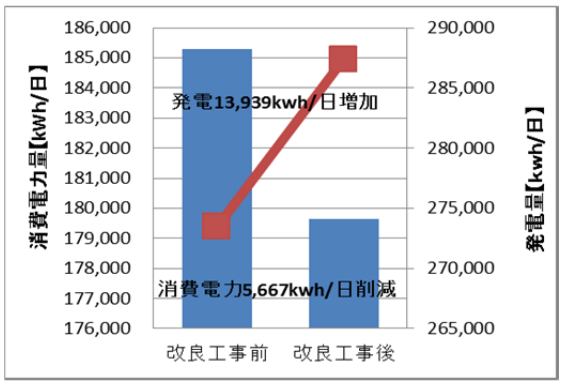
2016 年度は、以下の活動項目を掲げて活動し、提案メニュー4 件作成し、採用され、CO_2 削減に貢献出来たものと考えます。

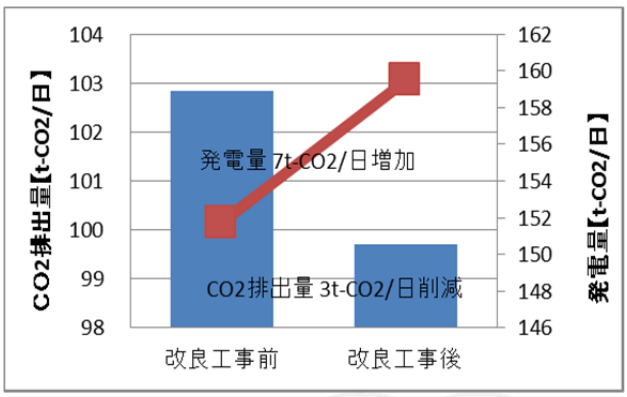
活動項目	目　標	結　果	判　定
ごみ焼却施設の長寿命化計画設計支援 ＣＯ$_2$排出削減提案	提案件数 4 件	4 件	○

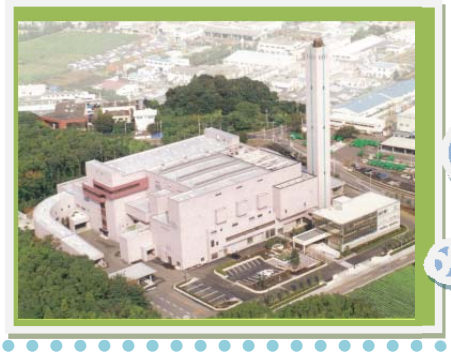
3. 提案内容一例の紹介

CO_2 削減対策メニューとして、省エネルギー対策（インバータ化、高効率モータ化、その他）とエネルギー回収対策（低空気比燃焼、タービン出力の増加、その他）について取り組んでいます。

以下グラフは、4 件の提案した消費電力量、発電量増加量、CO_2 削減量を纏めたものです。







お客様と一体となって、未来の子ども達の為に、地球環境保全に貢献するエンジニアリング集団となることをビジョンに日々業務を行っております。

システム製品

1. 概　要

システム製品の環境配慮型設計は、「環境活動促進システム」改善に伴い、社員の環境活動参加を促進する取組を行っています。

2. 目標と結果、評価

2016 年度は、以下の活動項目を掲げて活動し、目標を達成しました。
今後もシステム利用継続に伴い、社員の環境活動促進に貢献したいと思います。

活動項目	目　標	結　果	判　定
エコポイント申請率	60%以上 （昨年度数値を上回ること）	62%	○

3.提案内容一例の紹介

・システム開始お知らせポスター作成
・スマートフォンへの対応
・部門別の集計表を定期的にフォロー
・マニュアルの更新
・システム問い合わせ対応

2016 年度は、スマホ用サイトを作成し、活動現地からの申請を可能にし、社員のご家族も気軽に申請できるようにしました。

②社会貢献活動の取組

当社横浜事業部及び総務部では、地域貢献を重視した社会貢献活動を行っています。

・昼のボランティア清掃（工場周辺）

月に一度工場周辺の清掃を行っております。年間を通した活動になります。

屋内だけでなく、屋外の美化にも努めることで、お客様に喜ばれる環境作りに貢献しています！

・山下公園清掃ボランティア

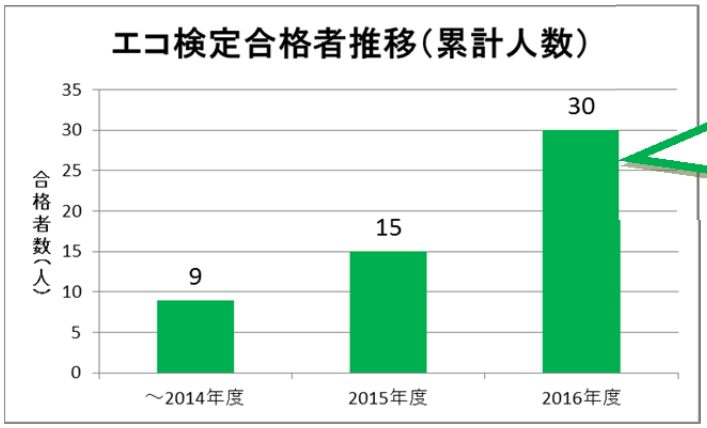
29 歳以下の若手達で山下公園周りの清掃を行いました。爽やかな汗もかいて気持ちもスッキリしたと好評でした。これからも若手からエコ活動を盛り上げていきます。

・海の公園清掃ボランティア

毎年恒例の行事で、今年度は約 100 人近い参加者で海の公園の砂浜を清掃しました。

③ 社内環境活動の取組

昨年度に比べて全体的にエコポイント申請率は増加傾向でした。特にエコ検定受験、エコ検定の合格取得は、年々確実に増加しています。



エコ検定は各部門の推進担当者が意欲的に取得し、更に若手社員を中心に取得の輪を拡げています！

業務に繋がる知識も活かして合格できました！

＜2016 年度エコ検定合格者の社員＞

④ うちエコ活動の取組

社内だけではなく、家でも環境活動を取り組んでもらう為、また社員だけではなく社員の家族にもエコ活動に参加してもらう為にうちエコ環境活動もエコポイント申請対象となっています。

うちエコ 2016 年度　項目別申請人数ランキングベスト３		
1 位	こまめに電気を消す	250 人
2 位	水の無駄遣いをしない	207 人
3 位	エアコンの設定温度	203 人

節電・節水は昨年度同様に上位を占めており、意識定着しています。

他にもエコバック持歩きや電球の LED 化も申請が多いです。

エコキュート設置の様子

太陽光発電設置の様子

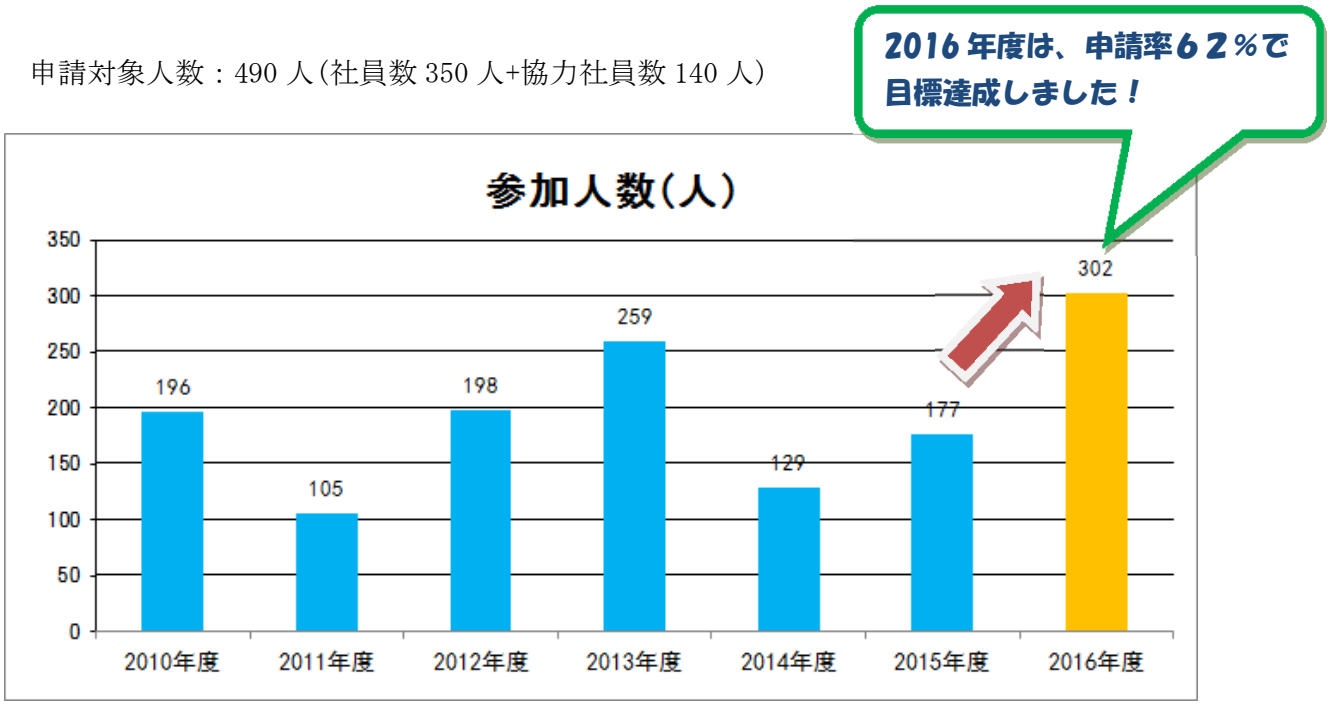
＜エコポイント活動の結果・評価＞

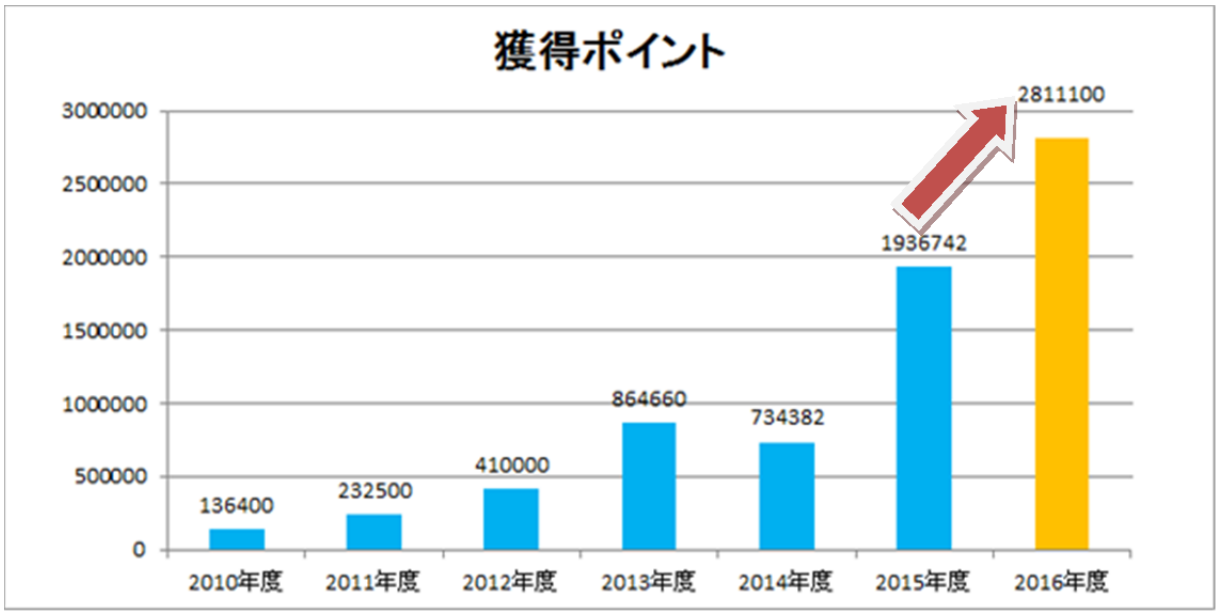
２０１０年度から今年度までの社内エコポイント活動にて申請された「参加人数」、「ポイント数」の比較グラフを記載します。

今年度は、前年度の参加者一人当たりの活動内容の偏重を是正する目的で、ポイントの見直しと最大申請回数を設けて申請上限を設定できるようにしました。

また、各部門申請率６０％以上の目標を設定し各部門推進担当者にてフォローを行った結果、参加率は目標を達成し、獲得ポイントも増加となりました。

申請対象人数：490 人(社員数 350 人+協力社員数 140 人)





【寄付履歴】

社内エコポイント制度の実施により、社内で申請されたポイントを寄付しております。2016 年度は下記の通りの実績となりました。

年　度	寄　　付　　先	寄付金額
2016 年度	①　WWF ジャパン	250,000 円
	②　神奈川県　水源環境保全・再生基金	150,000 円
	③　横浜市　環境保全基金	150,000 円

5.2 生物多様性に関する取組

当社横浜事業部及び総務部の場合、直接に生物多様性に貢献する活動は無く、植樹活動及び二酸化炭素の排出抑制による環境保全をもって生物多様性に貢献できると考えます。

また、生物多様性を初めとした自然保護、環境保全活動を率先する WWF ジャパン（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン）の法人会員となり、その活動に協力すると共に社員の環境活動のポイントから寄付を実施しました。

海の公園、山下公園のボランティア清掃に多くの人数が参加することにより、公園や海の生物の生息場所を保全することにも貢献しています。

海の公園

清掃後の山下公園

5.3 昨年度評価及び次年度以降の取組

2016 年度の目標及び結果を纏めました。

項目	2016 年度目標	結果	判定
① 社内エコポイント活動	エコポイント申請率 目標値：60%以上	62% (302 人／490 人)	○
	スマートフォン化の実施	実施済	○
② 環境活動の教育推進	部門内推進担当者間の勉強会 目標値：定期開催２回／年実施	実施済	○
	全社員環境教育（e ラーニング） 目標値：実施受講率 90%以上	99%実施 (473 人／477 人中)	○
	eco 検定の合格者促進累計合格者 目標値： 30 名以上	累計合格者： 30 人到達	○

＜評　価＞

① 社内エコポイント活動

社内エコポイントの申請率は 60%を超えていない部門もありましたが、全体的な目標は達成できました。

② 環境活動の教育

教育は部門推進担当者向けに勉強会を実施や e ラーニングを行い、環境知識を広めました。eco 検定では、部門別に合格者の目標値を示した為、部門推進担当者が積極的に周知を行った結果、合格者増加に貢献しました。

＜中期目標＞

中期計画 3 年(2019 年まで)を下記のように設定しました。

	2015 年度(実績)	2017 年度	2018 年度	2019 年度
電気使用量	116.2 [kWh/㎡]	2015 年度実績以下	2015 年度実績以下	2015 年度実績以下
水使用量	0.36 [㎥/㎡]	2015 年度実績以下	2015 年度実績以下	2015 年度実績以下
廃棄物排出量（事務所）	6.9 [ton]	2015 年度実績以下	2015 年度実績以下	2015 年度実績以下
廃棄物排出量（現地）	31.45 [ton]	工事件数による変動が激しいためリサイクル対応含め工事毎に目標公示		
化学物質使用量	54.6 [kg]	使用量微少なため目標に掲げず、適正な公示をもって対応		
グリーン調達	100%利用	100%利用	100%利用	100%利用
環境配慮型設計	各製品担当部門にて目標を掲げ実施する。			
エコ検定合格人数	全体累計 30 人 (2016 年実績)	全体累計 40 人以上	全体累計 50 人以上	全体累計で 60 人以上
エコポイント申請率	62 % (2016 年実績)	2019 年度までに 70%以上		

6.環境関連法規制の遵守状況及び違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規制等の遵守状況確認

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等は適正に遵守されています。

法規制等の名称	適用される要求事項	該当する項目	遵守評価
循環型社会形成推進基本法	設計のおけるリサイクル促進	環境配慮型設計	○
資源有効利用促進法	再生資源の利用	鉄骨類	○
廃棄物処理法	マニュフェスト保管及び届出	産業廃棄物	○
PRTR法	現地にて適正保管及び使用量の把握	特定化学物質(トルエン等)	○※1
地球温暖化対策法	温室効果ガスの排出抑制措置	電力使用量の削減	○
労働安全衛生法	安全衛生管理及び教育	現地工事	○
家電リサイクル法	使用状況の把握及び管理	エアコン・冷蔵庫	○
グリーン購入法	社内周知による購入促進	文房具・再生紙	○
建設資材リサイクル法	現地にて発生量の把握及び届出	産業廃棄物	○
有機溶剤中毒予防規制	災害事故速報の情報の共有	情報の発信	○
ダイオキシン類ばく露防止対策	特別教育の実施	現場前の社内教育	○

※1：2016 年度の PRTR 制度対象物質の使用量の状況は、冷却塔現地工事の充填体の接着剤として、エスダインを使用しトルエン含有量としては 22.2kg を使用（規定範囲内）しました。

(2) 外部からの環境に関する苦情等の受付結果

環境に関する外部からの苦情、要望は過去３年間に亘ってありませんでした。

(3) 違反・訴訟等

環境に関する違反、訴訟は過去３年間に亘ってありませんでした。

7.代表者による全体評価と見直し結果

1. 環境配慮型設計については、各部門とも年度目標を掲げて活動が展開され、環境への貢献度合いが見える化できているが、環境配慮型設計は本業でかつ社会的貢献度も高いので、普段の業務から意識し創意工夫を持って設計を行ってもらいたい。

2. 社内のＥＡ21 活動の総合的評価を表す指標として、社内エコポイント制度の数値として活動の広がり（＝申請者数）や活動の盛り上がり度（申請件数、ポイント数）があるが、前年度まではポイント数に重きを置いていた目標を、活動を広げる意味で申請率 60%以上とし申請フォローを行ったことにより、申請率が前年度 35%から 62%に上昇し目標を達成出来た事は評価出来る。追随するようにポイントも上昇した。

　次年度は、部門別で見ると活動の広がりに温度差があるので、申請率の低い部門の申請率向上を目指し、事務局及び推進担当者にて申請のフォローや声掛けを行うなどコミュニケーションを図りながら全体の申請率を上げてもらいたい。また、今年度より導入したスマートフォン化も実施の状況を把握し、より良いものとなるよう使用者の声を聞きながら改善を図ってもらいたい。

3. 今後は、活動のマンネリ化防止する為の施策を考え、実行するとともに、「職場から地域へ、個人から家族へ」と活動の輪を広げていくことで、社員のモチベーションや社会への貢献度アップに繋げて行きたいと考える。環境活動を広げるにはコミュニケーションが大事であり、社内ホームページ「すぴいど」での周知、推進担当者教育、エコポイントシステム、内部監査を通じて全社員のエコ意識向上を図ること。

4. 環境教育に関して、今年度は推進担当者向け教育や環境 e-ラーニングを行ったことにより、推進担当者の責任意識も向上し eco 検定受験の推進にもなり、eco 検定合格者数も増えたと評価する。推進担当者にとどまることなく、部門全員にも教育が存分に行き届くよう引き続き教育を行ってもらいたい。

取締役常務執行役員
横浜事業部長　西村 重雄

発行日　2017 年 8 月 31 日（初版）
発行者　〒231-8715
横浜市中区錦町 12 番地
三菱日立パワーシステムズ㈱横浜工場内
ＭＨＰＳエンジニアリング株式会社
横浜事業部　エコアクション 21 事務局
URL　http://www.eng.mhps.com/

ご意見・お問い合わせは下記までお願いします。
エコアクション 21 事務局
TEL 045-200-9779（担当：田籠　博）
E-mail d-mhipec-ea21emd@mhps.com